

第60回岐阜大学経営協議会 議事要旨

- 1 日時 平成25年6月18日(火) 13時30分～15時30分
- 2 場所 岐阜大学本部大会議室
- 3 出席者 森(議長), 大熊, 岡本, 勝野, 神谷, 佐々木, 八嶋, 廣田, 小見山, 吉村, 杉戸, 岩間, 林の各委員
オブザーバー:
早川教育学部長, 竹内地域科学部長, 清島医学系研究科長, 六郷工学部長, 福井応用生物科学部長, 吉田監事, 山田監事, 水谷学長特別顧問

開会に先立ち, 新たにオブザーバーとなった福井応用生物科学部長から自己紹介があった。次いで, 議長から, 岐阜大学育成品種で2012年フェンロー国際園芸博覧会において金賞を受賞した観葉植物「フェアリーウイング」の紹介があった。

4 議事要旨の確認について

第59回の経営協議会議事要旨(案)を原案どおり確認した。

5 報告事項

(1) 大学改革実行プランへの対応について

八嶋委員から, 資料1に基づき, 大学改革実行プランへの対応について, 先行3分野のミッションの再定義に係る経過及び国民に対して公表される資料について説明があった。次いで, 平成25年度国立大学改革強化推進補助金及び平成26年度国立大学法人運営費交付金概算要求の特別経費プロジェクト等のうち「(2)教育研究組織の再編成等を見据えた構想プロジェクト(調査費等)」について説明があった。

主な意見等は次のとおり。(○:質問・意見 ●:回答)

- 資料として, 工学分野, 医学系分野は提示されているが, 教員養成分野の分はないのか。
- 文部科学省において意見交換の日程を調整中であり, その日程に合わせて原案が提示される予定である。

(2) 大学改革に向けた公募事業への応募状況について

八嶋委員から, 資料2に基づき, 大学改革に向けた公募事業として, 既に応募している3事業及び応募に向けて現在検討中の1事業について説明があった。

次いで, 小見山委員から, 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)に応募中の「ぎふ清流の国, 地×知の拠点創成:地域にとけこむ大学」について, 岩間委員から, 未来医療研究人材養成拠点形成事業として現在検討中の「リサーチマインドを持った総合診察医の養成」について, 補足説明があった。

主な意見等は次のとおり。(○:質問・意見 ●:回答)

- 地(知)の拠点整備事業について, 自治体と連携した地域人材の養成

等、様々な取組を実施するようだが、現在、社会人の学び直しが大きな課題となっており、それに対する具体的な取組はどのようなことを考えているか。また、産業界との連携についてはどのように対処するのか。

- 産業界との連携は、シーズ、ニーズのマッチングだけでなく、地域産業界の今後の方針等を情報収集することから始めることが重要である。今回の事業では、地域に「場」（フューチャーセンター）を作り、企業と大学が話し合い、課題から発掘、解決するという構図を計画している。

また、地域と大学が問題を解決する過程の中で、大学が所有する知識だけでは解決できないことが想定されるが、それを補うことのできる知識をもった地域の方の協力を得て問題を解決し、併せて大学教育の中に組み込んでいくことを考えている。

- 従来、大学と地域の関係については、学内の個人と地域との関係が強かった。それを組織体としての大学と地域との関係を確立していくのが今回の狙いであると思う。「場」を設置するのは重要であるが、そこから何が生み出され、どういう形で実現するのか。どのような構想をもっているのか。
- タイトルに「地域にとけこむ大学」を掲げているが、それを目指したい。従前は大学が地域の外にいるような形で地域と接していたが、それでは摂取できないような、地域及び地域の産業界が持っている情報を収集できる「地域協学センター」を学内に設置したい。そこで大学が地域の生の声を聞き、地域の課題をお互いに発掘し、全学的に解決していく体制を構築したい。
- 今後、社会においては地方分権が進行していくと思われ、大学が地域ステークホルダーに対して果たす役割は重要になる。地域社会と向き合っ、地域社会をリードしていく力が必要になってくるので、この点を更に検討願いたい。
- 大学として、岐阜県とディスカッションを行い、本学の果たす役割を話し合ったうえで、今回の事業計画を策定している。指摘の内容は、今後、十分に検討していきたい。

(3) 平成25年度入学者選抜結果について

廣田委員から、資料3に基づき、平成25年度学部入学者選抜結果及び大学院入学者選抜結果について報告があった。

(4) 平成24年度卒業・修了者の就職状況等について

廣田委員から、資料4に基づき、平成24年度卒業者及び修了者の求人・休職・就職状況について報告があった。

主な意見等は次のとおり。（○：質問・意見 ●：回答）

- 就職率は近隣の大学と比べてどうか。
- 詳細な比較は行っていないが、悪くないと考えている。

(5) 平成25年度科学研究費助成事業内定状況について

小見山委員から、資料5に基づき、平成25年度科学研究費助成事業の内定状況について、件数は増加しているが、金額は新規大型科研費の採択がなかったため、減少した旨の説明があった。

次いで、平成25年度における新規採択及び継続分の採択件数について、国立大学における本学の順位の報告があった。

(6) 創立記念日行事(5/31)について

議長から、資料6に基づき、5月31日(金)に実施した創立記念日行事について、実施内容の報告があった。

(7) The Global Lectures of Gifu University (GLG) について

議長から、The Global Lectures of Gifu University (GLG) について概要説明があり、導入部分として作成した岐阜大学を紹介した映像が放映された。

6 審議事項

(1) 平成24事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

八嶋委員から、資料7に基づき、国立大学法人評価委員会に提出する、平成24事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について説明があり、審議の結果、了承され、6月21日開催の役員会に附議することとされた。

(2) 大学機関別認証評価に係る自己評価書(案)について

八嶋委員から、資料8に基づき、大学機関別認証評価自己評価書(案)について説明があり、審議の結果、了承され、6月21日開催の役員会に附議することとされた。

主な意見等は次のとおり。(○：質問・意見 ●：回答)

○ 10年ほど前に大学評価・学位授与機構の専門委員をやったことがある。岐阜大学の評価は可もなく不可も無くという印象であった。その時に委員が関心を持っていたのは、大学が地域貢献及び情報公開をどの程度行っているかであった。また、大学のセールスポイントを強調していると高評価だったと思う。岐阜大学のセールスポイントは岐阜薬科大学と連携し、地域のライフサイエンスの拠点となっているところである。これは岐阜大学が強調すべきところである。セールスポイントを強調して自己評価してほしい。

● 岐阜薬科大学との連携は、資料の「I 大学の現況及び特徴」に記載している。

大学機関別認証評価は、大学の教員の数が満たされているか、教育内容はどうか、学習成果はどうか等、評価項目が設定されているが、いただいたご意見は重要なことであり、参考とさせていただきたい。

○ 学士課程教育をプログラムとして捉えるということを積極的に各大学

が進めているようだが、それが必ずしも十分でないという指摘がある。指摘されるような事項に留意して評価書を作成していると理解して良いか。

- 学士課程教育プログラムの観点で記載しているというよりは、現在の取り組みを記載している。グッドプラクティスについて、事項を抽出して記載しているが、大学評価・学位授与機構からは成功事例だけの記載ではいけないとの指示もある。自分たちがグッドプラクティスと思って取り組んだが、失敗してしまった事項も記載してよいので、正直に記載している。学部によっては、コアカリキュラムの策定やカリキュラムマップを運用している等の取り組みを行っており、そこはグッドプラクティスとして強調している。
- 内容については公表されるので、それも踏まえて誇れるような形にしていきたい。

(3) 平成24事業年度財務諸表(案)等について

杉戸委員から、文部科学省等に提出する、平成24事業年度財務諸表(案)について審議願いたい旨の発言があり、資料9に基づき、貸借対照表及び損益計算書の概要、財務諸表の数値に基づく財務分析指標、平成24事業年度決算報告書等を中心に、主な内容について説明があり、審議の結果、了承され、6月21日開催の役員会に附議することとされた。

主な意見等は次のとおり。(○：質問・意見 ●：回答)

- よい経営状態であると感心している。未収附属病院収入の回収はどのような状況か。また、一般管理費比率が他大学と比べて高くなっているが、これは予期せぬ出費があったのか。
- 未収附属病院収入に計上されている金額は、年度を跨いだ保険請求額と実際の未収入金の合計である。
また、一般管理費には、工学部の改修工事にかかる費用が含まれている。工学部の改修工事は複数年計画で行っており、進行状況によって費用が変動し、今年度は一般管理費比率が高くなった。
- 未収附属病院収入のうち、98～99%を回収している。不良債権としてみなし消滅をかける金額は、年間800万円程度である。

(4) 平成26年度概算要求事項(案)について

杉戸委員から、文部科学省に提出する、平成26年度概算要求事項について審議願いたい旨の発言があり、資料10に基づき、概算要求対象経費、特別運営費交付金(特別経費)の要求事項について説明があった。次いで、吉村委員から施設整備費補助金の要求事項について説明があり、審議の結果、了承され、6月21日開催の役員会に附議することとされた。

主な意見等は次のとおり。(○：質問・意見 ●：回答)

- 鳥取大学と共同獣医学科を設置し、それぞれの強みを活かしながら教育の質を高めていくということだが、産業動物、小動物の扱いについて

は両大学間でどのように分担・整理するのか。

- 岐阜大学と鳥取大学は、愛玩動物（小動物）と産業動物をバランスよく扱っている。
- 本学の産業動物を扱う施設は、規模はそれほど大きくないが、他大学と違い、キャンパスに隣接した場所に設置しており、日常的に産業動物の教育を行うことができる。このことは、本学の持つ強みである。共同獣医学科のカリキュラムの中に、鳥取大学の学生が本学へ来て、集中的に実習することを計画している。
- 産業動物は岐阜大学において教育上責任を持つということか。共同設置なので、二重投資は避けるべきであり、主として教育を行う大学に予算を投入して施設を充実すべきである。
- 産業動物は地方行政との絡みもあって、両大学とも努力しているところである。両大学で連携して予算要求していきたい。
- 南海トラフ巨大地震対応として、東海圏の6国立大学法人が共同でプロジェクトを実施することを計画しているが、岐阜大学の役割は何か。
- 本プロジェクトは名古屋大学が中心となって立ち上げている。各大学に防災に関する常設の研究センターが設置されているが、そのセンターが本プロジェクトに参加している。本学は「社会資本アセットマネジメント技術研究センター」が参加し、維持・管理を担当している。

7 その他

(1) 医学部附属病院の経営状況について

岩間委員から、資料11に基づき、医学部附属病院の平成24年度経営目標達成率（附属病院決算）について報告があり、損益計算書及び収支計算書について説明があった。

8 次回の開催日

次回の開催は11月19日（火）午後とした。